

第 1 学年 外国語科単元計画

1 単元名 Program 7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂)

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、北海道釧路沖のシャチウォッチングに参加した由紀とマイクが、シャチやイルカの生体調査をしているガイドの笹森さんの説明を聞いている場面が描かれている。海のギャングと呼ばれどろ猛なイメージのシャチが、実は家族を大切に暮らしている様子や、室蘭沖のイルカが豊かな海でのびのびと子育てをしている様子を通して、自然の素晴らしさ、大切さを感じとることができる。言語材料として、疑問詞 who、when、人称代名詞 him、her、頻度を表す副詞 usually、always、sometimes などが扱われている。これらの言語材料や既習事項を使って日常生活の身近な話題について問答したり、そこから得た情報を他に伝えることができる。そこで、有名人とレポーターになりきって問答し、リポーターがその情報を他者に伝えるという活動を通して、学習指導要領に示された言語活動「話すこと」－(イ)自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝える力を養うことのできる単元である。また、本校中学 1 年生英語の「話すこと」における学習到達目標は、「自分の気持ちや身の回りの出来事などについて簡単な英語で伝えることができる。」であり、本単元終了時に「身の回りの人やもの、日常生活について簡単な英語で伝えることができる。」ことを目標としている。

(2) 生徒観

①生徒の実態

生徒が中学校で英語の学習に取り組み始めてから半年が過ぎた。小学校外国語活動において、「コミュニケーションの素地」は一定養われている。中学校では「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」が加わりそれぞれの技能の習得を目指す。単語の綴りや英文を書くときのルールなど教師が生徒のミスを指摘することが多くなり、覚えることが目的となる学習活動となっている。そういった指導が英語を読んだり書いたりすることに対する生徒の苦手意識につながっていると考えられる。

1 学期末に行った自己紹介スピーチでは、人前で英語を話すことに恥ずかしさがあり、聞き手を意識して適切な音量で話したり、アイコンタクトをしながら話したりする生徒は少なかった。現在でも活動する時に何をどのようにするのか理解していない、どのように話せばよいのか分かっていない。また、ALT の英語が聞き取れていない、話している内容が分かっていない。しかし、ALT との活動後の生徒のコメントからは、「話すこと」に対して難しさは感じているものの、自分の考えや気持ちを伝えたいと前向きに考えていることがうかがえる。

生徒のもつ「話すこと」に対する意欲と能力の間に大きな差があると感じられる。その差を少しずつ埋めていくことが、英語学習に対する意欲や技能の向上につながるのではないかと考える。

②生徒の英語学習に対する意識（英語学習に対する意識調査より）

平成 28 年 7 月に第 1 学年生徒 92 名を対象に実施した意識調査（有効回答数 77）によると、「英語が好きか」という問いに「とても好き」「まあ好き」と肯定的に回答した生徒は全体の 54.5%、「好きな領域はどれか」という問いには、「聞くこと」と回答した生徒が最も多く 54.5%、「話すこと」と回答した生徒は 49.3%であった。「授業での好きな活動はどれか」という問いには、「友

だちと話すこと」と回答した生徒が 59.7%と最も多く、「先生と話す」、「自分の考えを話す」といった活動には否定的回答をした生徒の割合が高かった。特に「スピーチ活動」に対しては、70.1%の生徒が「あまり好きではない」、「まったく好きではない」と否定的な回答をしている。この調査から、「話すこと」を肯定的に捉えていない生徒が多いことがわかる。また、「英語でのやりとりで困ること」に関する質問では、「何を話したらいいのかわからない」、「単語や文法がわからない」、「自分の言いたいことをすぐに（すらすらと）表現できない」といったことに困っている生徒が多い。これらの要因として、「話す話題が見つからない」、「相手の話している内容が分からないので何を話せばよいか分からない」、「単語や文法が分からない」といったことが考えられる。このことから、生徒が英語を話す際に、いくつかの問題点が複合的に絡み合っていると考えられる。

(3) 指導観

まず、単元のゴールを生徒と共有し、単元を通じた学習への見通しをもたせる。そして、活用させたい文構造（who、when を用いた表現、人称代名詞）を身に付けさせる。既習の疑問詞や人称代名詞と併せて問答させたり口頭で説明させたりすることで、言語材料の定着を図りたい。また、前単元で学習した一般動詞の三人称単数現在形を用いて、身の回りの人物や事実を描写する表現を身に付けさせたい。そのために、セクションごとに教科書本文のリプロダクション活動¹を取り入れ、新出の文構造と既習の文構造を繰り返し使い、物事を説明したり描写したりする力を育成することで、単元のゴールである「リポーターになり、ある有名人にインタビューした内容が書かれたメモを活用して、正しく伝える」力を育成したい。

本単元では4技能の中の「話すこと」に焦点を当てる。生徒が「話すこと」に難しさを感じている要因として考えられる「話す話題が見つからない」、「相手の話している内容が分からないので何を話せばよいか分からない」、「単語や文法が分からない」という課題を、本単元を通して一つずつ解消していきたい。そのための手立てとして、(ア)活動する前に、そのゴールや活動の仕方を示す。モデルを見せることによりルール等を生徒に具体的に示す。(イ)授業全体を通して聞く経験や話すことの経験を積ませ、英語の音声の特徴、質問や応答の仕方に慣れさせる。(ウ)学習到達目標を目指してスモールステップで指導し、生徒の「できた」という達成感や満足感を積み重ねる。(エ)生徒が英語で話す必然性のある場面設定をし、言語活動を行う。

帯活動において、ペアで「話すこと」に重点を置いた言語活動を行い既習事項の定着を図り、即興的なやりとりのある活動を継続して行う。また、話すことにおけるコミュニケーションの態度や技能について段階を踏んで指導し、生徒のもつ「話す」能力の向上を図り、英語学習への意欲も高めたい。

3 単元の目標

- (1) 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝える。
- (2) 言語活動において、間違いを恐れず話す。
- (3) 疑問詞 who, when を用いた文の構造を理解する。
- (4) 人称代名詞目的格の意味、用法を理解する。

¹ リプロダクション活動とは、「すでに学習した教科書の本文の内容について、教科書を見ないで、メモや絵などをもとに再生させる活動（内容再生）である。」（本多, 2014）

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
間違ふことを恐れずに話している。	得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。	/	①疑問詞 who, when を用いた文の構造を理解している。 ②人称代名詞目的格の意味、用法を理解している。

5 指導と評価の計画（全8時間）

時	学習内容	評価 総括的評価、(形成的評価)					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	<p>☆単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リポーターになり、ある有名人にインタビューした内容が書かれたメモを活用して、正しく伝える。 ○疑問詞 who を用いた文の構造を知る。 ・ペアでワークシートに載っている先生について、その人が誰か、何を教えているか問答する。 ○教科書本文（単元全セクション）の概要を把握する。 ○教科書本文（セクション1）の内容を理解する。 ○新出語句の発音練習をする。 ○教科書本文の音読練習をする。 				○	エ① 形 (疑問詞 who を用いて、尋ねたり答えたりしている。)	後日ペーパーテスト (活動の観察、ノート点検)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の文法事項の復習をする。 ○教科書本文に関する復習と音読練習をする。 ○教科書本文を活用した言語活動を行う。 ・キーワードをもとに本文をリプロダクションする。 ①個人 ②ペア 	○	○			ア 形 (間違ふことを恐れずに話している。) イ 形 (得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。)	(活動の観察)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○人称代名詞の目的格 him, her を用いた文の構造を知る。 ・インタビュー活動で聞き取った好きなスポーツ選手や芸能人について他のクラスメイトが好きかどうか問答する。 ○教科書本文（セクション2）の 				○	エ② 形 (人称代名詞目的格を用いて、尋ねたり答えたりしている。)	後日ペーパーテスト (活動の観察、ノート点検)

	<p>内容を理解する。</p> <p>○新出語句の発音練習をする。</p> <p>○教科書本文の音読練習をする。</p>					
4	<p>○前時の文法事項の復習をする。</p> <p>○教科書本文に関する復習と音読練習をする。</p> <p>○教科書本文を活用した言語活動を行う。</p> <p>・キーワードをもとに本文をリプロダクションする。</p> <p>①個人 ②ペア</p>	○	○		<p>ア 形 (間違うことを恐れずに話している。)</p> <p>イ 形 (得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。)</p>	(活動の観察)
5	<p>○疑問詞 when を用いた文の構造を知る。</p> <p>・ペアで、日常生活での行動について、いつ何をするか問答する。</p> <p>○教科書本文(セクション3)の内容を理解する。</p> <p>○新出語句の発音練習をする。</p> <p>○教科書本文の音読練習をする。</p>				○ エ① 形 (疑問詞 when を用いて、尋ねたり答えたりしている。)	後日ペーパーテスト (活動の観察、ノート点検)
6	<p>○前時の文法事項の復習をする。</p> <p>○教科書本文に関する復習と音読練習をする。</p> <p>○教科書本文を活用した言語活動を行う。</p> <p>・キーワードをもとに本文をリプロダクションする。</p> <p>①個人 ②ペア ③全体(数名、全体の前で発表する。)</p>	○	○		<p>ア 形 (間違うことを恐れずに話している。)</p> <p>イ 形 (得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。)</p>	(活動の観察)
7 , 8	<p>○なりきりリポーター</p> <p>・ペアで、有名人とリポーターになりきって、問答し合う。(やりとり)</p> <p>・インタビューで得た情報を書いたメモを活用して、レポートイングする。(発表)</p>	○	○		<p>ア 間違うことを恐れずに話している。</p> <p>イ 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。</p>	発表 ビデオ撮影
後日	○ペーパーテスト				○ エ①②	

◆第1時(1/8)

本時の目標	疑問詞 who を用いて、尋ねたり答えたりする。		
観点別評価規準	エ①形 疑問詞 who を用いて、尋ねたり答えたりしている。		
準備物	海洋生物に関する映像、CD デッキ、ピクチャーチャート、フラッシュカード		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
7	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Topic Talking ○教師とトピックについてやりとりする。 例) T : What animal do you like? S1 : I like dogs. T : Oh, S1 likes dogs. Me, too. How about S2? S2 : I like cats. T : Wow, You like cats. Do you have any cats? S2 : Yes, I do.</p> <p>○ペアで問答する。横、縦、斜めのペアで行う。 コミュニケーションの態度(アイコンタクトやスマイル、ボリュウム)を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が身近な話題(トピック)を英語で話す。 ・Oral Interaction ・Topic Talking のトピックを提示する。 ・コミュニケーションの技能(「反応」や「オウム返し」、「あいづち」)を取り入れるよう指示する。 	
3	2 単元ゴールの確認	リポーターになり、ある有名人にインタビューした内容が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。	
5	<p>3 新出文法事項(who)の確認</p> <p>○who を用いた質問の仕方と答え方を知り、口頭練習する。 T : Who is this teacher? Ss : He is Mr. Morita. T : What subject does he teach? Ss : He teaches math.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度着任した2名の教員の写真を掲示する。 	
1	4 本時のめあての確認	疑問詞 who, what を用いて尋ねたり、答えたりしよう。	
8	<p>5 新出文法事項のドリル Information Gap</p> <p>○ペアでワークシートに載っている先生について、その人が誰か、何を教えているかを問答する。 Ex) A : Who is this teacher? B : He is Mr. ○○. A : What subject does he teach? B : He teaches △△.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに6名の先生の写真を掲載する。 	エ①形 (観察)
20	<p>6 言語材料の導入及び音読</p> <p>(1) 教科書本文全体の概要を理解する。 ①写真(映像)を見ながら、海洋生物についての紹介を聞く。 ②教科書本文全体を聞き、質問に答える。 Q1. Who is Nick? Q2. What does Ms. Sasamori study? . . . ③ピクチャーチャートを見ながら本文全体を聞く。 ④答えを確認する。</p> <p>(2) 教科書本文セクション1の内容を理解する。 ピクチャーチャートを見ながら、教師とやりとりする。</p> <p>(3) 新出語句の発音を練習する。</p> <p>(4) 本文の音読練習をする。 Chorus, Buzz, Pair, Read and Look-up など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Pre-listening として、質問の答えを見つめながら、教科書本文全体を聞くように伝える。 ・Oral Introduction ・Oral Interaction ・段階を踏んで練習させる。 	
6	<p>7 まとめ/振り返り</p> <p>(1) 学習した内容をノートに書く。 (2) 学習の振り返りを行う。 (3) 宿題や次時の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	エ①形 (ノート点検)

◆第2時（2／8）

本時の目標	間違ふことを恐れずに話す。 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝える。		
観点別評価規準	ア形 間違ふことを恐れずに話している。 イ形 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。		
準備物	ピクチャーチャート、CDデッキ、ワークシート		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
8	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Topic Talking ○教師とトピックについてやりとりする。 例) T : Who is your favorite star, S1? S1 : I like ○○. T : Really? You like ○○. He(○○) is so cool. How about S2? Who is your favorite star? S2 : I like △△. T : Wow, You like △△. S1 likes ○○. S2 likes ○○. *star は変えてもよい。 athlete, singer など。 ○ペアで問答する。横、縦、斜めのペアで行う。 コミュニケーションの態度 (アイコンタクトやスマイル、ボリュウム) を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が身近な話題 (トピック) を英語で話す。 ・Oral Interaction ・Topic Talking のトピックを提示する。 ・コミュニケーションの技能(「反応」や「オウム返し」、「あいづち」) を取り入れるよう指示する。 	
2	<p>2 本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自分の言葉で、ニックと笹森さんについて紹介しよう。</p> </div>		
8	<p>3 前時の文法事項の復習</p> <p>○好きな芸能人やスポーツ選手について問答し合う。制限時間の中で出来るだけ多くの人と問答し、訪ねた人の中から2人選んで、レポーティング (Writing) を行う。 例) A : Who is your favorite star? B : I like ○○. / My favorite star is ○○. レポーティング : Jun likes Ichiro.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トピックトーキングで行った活動を基にインタビュー活動を行う。 ・ワークシートを配布し、ワークシートにメモをしながらインタビューさせる。 	
10	<p>4 前時の教科書本文の復習及び音読練習</p> <p>(1) 本文の内容を振り返る。(教科書は閉本) 教師とやりとりしながら振り返る。 (2) ストレスやイントネーションを意識して音読練習する。 Overlapping, Buzz, Read and Look-up など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral interaction ・キーワードとピクチャーチャートを黒板に掲示していく。 ・次の言語活動(読むこと→話すこと)につながるように、音読練習させる。プロソディの指導もしつかり行う。 	
14	<p>5 言語活動</p> <p>○本文のキーワードリプロダクション活動を行う。 ①個人：カードを見ながら、英文で再生する。 ②ペア：ペアで協力して練習する。パートナーは内容が正しく伝わっているかチェックする。 言葉に詰まった時には、パートナーが手助けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーチャートと吹き出しを載せたワークシートを配布する。 ・2分ずつ交代で行う。 ・生徒の様子を見て必要であればもう1度行う。 	ア形 イ形 (観察)
8	<p>6 まとめ/振り返り</p> <p>(1) リプロダクションした内容をノートに書く。 (2) 学習の振り返りを行う。 (3) 宿題や次時の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	

◆第3時(3/8)

本時の目標	人称代名詞目的格を用いて、尋ねたり答えたりする。		
観点別評価規準	エ②形 人称代名詞目的格を用いて、尋ねたり答えたりしている。		
準備物	ピクチャーチャート、CDデッキ、ワークシート、フラッシュカード		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
7	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Topic Talking ○教師とトピックについてやりとりする。 例) T : What ○○ do you like? S1 : I like ~. T : Oh, You like ~. Me, too. How about S2? S2 : I like ~. T : Wow, You like ~. Do you have any ~? S2 : Yes, I do.</p> <p>○ペアで問答する。横、縦、斜めのペアで行う。 コミュニケーションの態度(アイコンタクトやスマイル、ボリュウム)を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が身近な話題(トピック)を英語で話す。 ・Oral Interaction ・Topic Talkingのトピックを提示する。 ・コミュニケーションの技能(「反応」や「オウム返し」、「あいづち」)を取り入れるよう指示する。 	
5	<p>2 新出文法事項(him/her)の確認</p> <p>○前時のインタビュー活動で聞き取った好きなスポーツ選手や芸能人を例に、教師とやりとりする。 例) T : This is Ichiro. Do you know <u>Ichiro</u>? Ss: Yes, I do. T : I like <u>Ichiro</u>. I like him very much. He hits and runs. He can play baseball very well. S1, do you like <u>Ichiro</u>? Do you like him? S1: Yes, I do. T : Oh, you like Ichiro. S1 likes him. S2, do you like him? S2: No, I don' t. I don' t like him.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Interaction ・写真を掲示する。 ・キーワード等を黒板に書く。 ・人称代名詞 him を使いながら口頭導入する。 ・同じように女性についても、her を交えながら導入する。 	
1	3 本時のめあての確認	人称代名詞目的格を使って、尋ねたり答えたりしよう。	
8	<p>4 新出文法事項のドリル Interview</p> <p>○前時にインタビュー活動で聞き取った好きなスポーツ選手や芸能人について、他のクラスメイトが好きかどうか問答する。 例) A: I like Ichiro. Do you like him? B: Yes, I do. I like him very much. No, I don' t. I don' t like him.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にインタビュー活動で聞き取った好きなスポーツ選手や芸能人を載せたワークシートを配布する。 	エ②形 (観察)
20	<p>5 言語材料の導入及び音読</p> <p>(1) 教科書本文セクション2の内容を理解する。 ピクチャーチャートを見ながら、教師と生徒がやりとりする。</p> <p>(2) 新出語句の発音を練習する。</p> <p>(3) 本文の音読練習をする。 Chorus, Buzz, Pair, Read and Look-up など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーチャートを見せながら本文全体を聞かせる。 ・Oral Introduction ・Oral Interaction ・段階を踏んで練習させる。 ・頻度を表す副詞について触れる。 	
8	<p>6 まとめ/振り返り</p> <p>(1) 学習した内容をノートに書く。</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。</p> <p>(3) 宿題や次時の予定を確認する。 「なりきりリポーター」の準備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	エ②形 (ノート点検)

◆第4時（4／8）

本時の目標	間違えることを恐れずに話す。 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝える。		
観点別評価規準	ア形 間違えることを恐れずに話している。 イ形 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。		
準備物	ピクチャーチャート、CDデッキ、ワークシート		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
8	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Topic Talking</p> <p>○教師と生徒がトピックについてやりとりする。</p> <p>例) T : What ○○ do you like? S1 : I like ~. T : Oh, You like ~. Me, too. How about S2? S2 : I like ~. T : Wow, You like ~. Do you have any ~? S2 : Yes, I do.</p> <p>○ペアで問答する。横、縦、斜めのペアで行う。 コミュニケーションの態度（アイコンタクトやスマイル、ボリュウム）を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が身近な話題（トピック）を英語で話す。 Oral Interaction Topic Talking のトピックを提示する。 コミュニケーションの技能（「反応」や「オウム返し」、「あいづち」）を取り入れるよう指示する。 	
1	2 本時のめあての確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 笹森さんになりきって、ニックや他のシャチについて説明しよう。 </div>	
9	<p>3 前時の文法事項の復習</p> <p>○好きなスポーツ選手や芸能人について人称代名詞（主格、所有格、目的格）を使ってペアで紹介し合う。</p> <p>例) I like Nishino Kana. She is a singer. I like her song very much. So I like her.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間があれば、ペアを替えて、再度行う。 	
10	<p>4 前時の教科書本文の復習及び音読練習</p> <p>(1) 本文の内容を振り返る。（教科書は閉本。） 教師と生徒でやりとりしながら振り返る。</p> <p>(2) ストレスやイントネーションを意識して音読練習する。 Overlapping, Buzz, Read and Look-up など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Oral interaction キーワードとピクチャーチャートを黒板に掲示していく。 後の言語活動（読むこと→話すこと）につながるように、音読練習させる。プロソディの指導もしつかり行う。 	
14	<p>5 言語活動</p> <p>○本文のキーワードリプロダクション活動を行う。</p> <p>①個人：カードを見ながら、英文で再生する。</p> <p>②ペア：ペアで協力して練習する。パートナーは内容が正しく伝わっているかチェックする。 言葉に詰まった時には、パートナーが手助けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ピクチャーチャートと吹き出しを載せたワークシートを配布する。 2分ずつ交代で行う。 生徒の様子を見て必要であればもう1度行う。 	ア形 イ形 (観察)
8	<p>6 まとめ／振り返り</p> <p>(1) リプロダクションした内容をノートに書く。</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。</p> <p>(3) 宿題や次時の予定を確認する。 「なりきりリポーター」の準備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	

◆第5時 (5/8)

本時の目標	疑問詞 when を用いて、尋ねたり答えたりする。		
観点別評価規準	エ①形 疑問詞 when を用いて、尋ねたり答えたりしている。		
準備物	ピクチャーチャート、CD デッキ、ワークシート、フラッシュカード		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
8	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Picture Telling</p> <p>○教師と絵 (写真) についてやりとりする。</p> <p>○ペアで絵 (写真) について描写し合う。</p> <p>①ペアでじゃんけんをして順番を決める。</p> <p>②勝った方から1つ (2つ) ずつ英文を言う。</p> <p>③時間内にペアでいくつ描写できるか、教えながら行う。</p> <p>④終わったら、描写した内容を全体で確認する。</p> <p>《指導例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の p.8~11 で、「This is ~.」「These are ~.」を使う場合 「This is a hat. / These are notebooks.」… ・動詞の三単現を使う場合 「Ms. Brick has yellow shoes. / She likes beautiful notebooks.」… <p>コミュニケーションの態度 (アイコンタクトやスマイル、ボリューム) を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が身近な話題を英語で話す。 ・Oral Interaction ・絵 (写真) を掲示する。 ・「1人1つ (2つ) ずつ言いましょう。」と具体的に指示し、全ペア同時に始める。 ・話すときには Look-up を意識させる。 ・コミュニケーションの技能 (「反応」や「オウム返し」、「あいづち」) を取り入れるよう指示する。 	
7	<p>2 新出文法事項(when)の確認</p> <p>(1) 教師と誕生日についてやりとりする。 When is your birthday?</p> <p>(2) 日常生活での行動について、いつするかを尋ねたり答えたりする言い方を確認する。</p> <p>例) When do you watch TV? -- I watch TV after dinner.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の外国語活動でも扱っている誕生日を尋ねる言い方を使って導入する。 ・Oral Interaction ・ときを表す言葉についても触れておく。 例) after school, before dinner など。 	
1	<p>3 本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">疑問詞 when を使って、尋ねたり答えたりしよう。</div>		
7	<p>4 新出文法事項のドリル Interview</p> <p>○日常生活での行動について、いつ何をするか、ペア A (横) で問答する。</p> <p>例) When do you study? When do you usually listen to music?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報は、後日集計して教室に掲示する。 	エ①形 (観察)
18	<p>5 言語材料の導入及び音読</p> <p>(1) 教科書本文セクション2の内容を理解する。 ピクチャーチャートを見ながら、教師と生徒がやりとりする。</p> <p>(2) 新出語句の発音を練習する。</p> <p>(3) 本文の音読練習をする。 Chorus, Buzz, Pair, Read and Look-up など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーチャートを見せながら本文全体を聴かせる。 ・Oral Introduction ・Oral Interaction ・段階を踏んで練習させる。 ・頻度を表す副詞について触れる。 	
9	<p>6 まとめ/振り返り</p> <p>(1) 学習した内容をノートに書く。</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。</p> <p>(3) 宿題や次時の予定を確認する。 「なりきりリポーター」の準備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	エ②形 (ノート点検)

◆第6時（6／8）

本時の目標	間違えることを恐れずに話す。 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝える。		
観点別評価規準	ア形 間違えることを恐れずに話している。 イ形 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。		
準備物	ピクチャーチャート、CD デッキ、ワークシート		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
8	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Picture Telling</p> <p>○教師と絵（写真）についてやりとりする。</p> <p>①ペアでじゃんけんをして順番を決める。</p> <p>②勝った方から1つ（2つ）ずつ英文を言う。</p> <p>③時間内にペアでいくつ描写できるか、数えながら行う。</p> <p>④終わったら、描写した内容を全体で確認する。</p> <p>《指導例》</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の p.8～11 で、「This is ～.」「These are ～.」を使う場合 「This is a hat. / These are notebooks.」… 動詞の三単現を使う場合 「Ms. Brick has yellow shoes. / She likes beautiful notebooks.」… <p>コミュニケーションの態度（アイコンタクトやスマイル、ボリュウム）を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が身近な話題を英語で話す。 Oral Interaction 絵（写真）を掲示する。 「1人1つ（2つ）ずつ言いましょう。」と具体的に指示し、全ペア同時に始める。 話すときにはLook-up を意識させる。 コミュニケーションの技能（「反応」や「オウム返し」、「あいづち」）を取り入れるよう指示する。 	
1	2 本時のめあての確認	自分の言葉で、室蘭沖のイルカについて語ってみよう。	
8	<p>3 前時の文法事項の復習</p> <p>○前時に行ったペア活動でのパートナーの日常生活の行動について、ペアB（縦）でwhenを使って問答する。</p> <p>例) A: When does ○○ study? B: She studies after dinner.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時に使用したワークシートを使う。 初めにデモンストレーションする。 	
7	<p>4 前時の教科書本文の復習及び音読練習</p> <p>(1) 本文の内容を振り返る。（教科書は閉本。） 教師と生徒でやりとりしながら振り返る。</p> <p>(2) ストレスやイントネーションを意識して音読練習する。 Overlapping, Buzz, Read and Look-up など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Oral interaction キーワードとピクチャーチャートを黒板に掲示していく。 後の言語活動（読むこと→話すこと）につながるように、音読練習させる。プロソディの指導もしつかり行う。 	
18	<p>5 言語活動</p> <p>○本文のキーワードリプロダクション活動を行う。</p> <p>①個人：カードを見ながら、英文で再生する。</p> <p>②ペア：ペアで協力して練習する。パートナーは内容が正しく伝わっているかチェックする。</p> <p>③発表：ペアのどちらか一人が全体の前で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ピクチャーチャートと吹き出しを載せたワークシートを配布する。 2分ずつ交代で行う。 生徒の様子を見て必要であればもう1度行う。 	ア形 イ形 (観察)
8	<p>6 まとめ／振り返り</p> <p>(1) リプロダクションした内容をノートに書く。</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。</p> <p>(3) 宿題や次時の予定を確認する。 「なりきりリポーター」の準備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にしよう声掛けをする。 	

◆第7時（7／8）、第8時（8／8）

本時の目標	間違ふことを恐れずに話す。 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝える。		
観点別評価規準	ア 間違ふことを恐れずに話している。 イ 得た情報が書かれたメモを活用して、正しく伝えることができる。		
準備物	マイク、ワークシート、活動時のBGM、画用紙、マーカー、枠（有名人用）		
学習の展開			
時間	生徒の学習活動	指導上の留意事項	評価規準 評価方法
8	<p>1 帯活動</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>(2) コミュニケーション活動を行う。 Picture Telling</p> <p>○教師と絵（写真）についてやりとりする。</p> <p>①ペアでじゃんけんをして順番を決める。</p> <p>②勝った方から1つ（2つ）ずつ英文を言う。</p> <p>③時間内にペアでいくつ描写できるか、数えながら行う。</p> <p>④終わったら、描写した内容を全体で確認する。</p> <p>《指導例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の p.8～11 で、「This is ～.」「These are ～.」を使う場合 「This is a hat. / These are notebooks.」… ・動詞の三単現を使う場合 「Ms. Brick has yellow shoes. / She likes beautiful notebooks.」… <p>コミュニケーションの態度（アイコンタクトやスマイル、ボリュウム）を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が身近な話題を英語で話す。 ・Oral Interaction ・絵（写真）を掲示する。 ・「1人1つ（2つ）ずつ言いましょう。」と具体的に指示し、全ペア同時に始める。 ・話すときにはLook-upを意識させる。 ・コミュニケーションの技能（「反応」や「オウム返し」、「あいづち」）を取り入れるよう指示する。 	
2	<p>2 本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>リポーターになり、ある有名人にインタビューした内容が書かれたメモを活用して、正しく伝えよう。</p> </div>		
30	<p>3 言語活動 なりきりリポーター1</p> <p>(1) ペアで有名人とリポーターになりきってインタビューを行う。</p> <p>○有名人とリポーターになりきり、インタビュー活動を行う。（15または16組）</p> <p>レポーターは、マッピングをもとに、2分間インタビューを行う。有名人は、その人になりきって答える。</p> <p>○レポーターは、相手の答えをメモしながらインタビューし、インタビュー終了後、結果をまとめる。有名人は、ネームプレートなどを作成する。</p> <p>(2) レポーターがインタビュー結果を整理し、レポートを行う。</p> <p>○レポーターは前に出て、インタビュー結果を報告する。有名人役は、その人の写真になったつもりで、前に立つ。</p> <p>○発表者以外の聴衆は、その発表についての評価をしながら聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すときにはLook-upを意識させる。 ・コミュニケーションの態度や技能（「反応」や「オウム返し」、「あいづち」）を取り入れるよう指示する。 ・発表をビデオで記録し、後日評価する。 	ア イ (発表／ビデオ録画)
10	<p>4 まとめ／振り返り</p> <p>(1) 学習した内容をノートに書く。</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。</p> <p>(3) 宿題や次時の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り掛かれない生徒には、黒板の掲示を参考にするよう声掛けをする。 	